



インドネシア

企業訪問調査レポート【10】:

Kids 'N Teens

～ 幼児・小学生を対象とした学習教室 ～

■ インドネシア共和国 — 基礎データ —

- 面積: 1,910,931平方キロメートル (2013年 日本の約5.1倍)
- 人口: 2億4,882万人 (2013年 中央統計局)
- 首都: ジャカルタ / 人口997万人 (2013年 中央統計局)
- 名目GDP総額: 8,683億4,900万ドル (2013年)
- 1人あたりのGDP(名目): 3,510ドル (2013年)
- 実質GDP成長率: 5.8% (2013年)
- 為替レート: 1ドル ≒ 10,461.2 インドネシア ルピア (2013年 平均値)

出所: JETROホームページ 国・地域別情報(J-FILE)「インドネシア概況(2015年2月更新)」



■ 調査日 : 2015年2月23日

■ 業種 : 幼児・小学生を対象とした学習教室

■ 特徴 : 幼児～小中学生を対象に、読み書き、算数、英語を教える教室のフランチャイズビジネスで、教材は独自に作成したオリジナルを使用する。

ジャワ島外のパル、パレンバン、ジャンビでは小学生でも読み書きが満足にできない子どもが多く、この教室に通う児童数も増加傾向が顕著である。一方、読み書きのできる児童の多いスラバヤはやや停滞気味である。

インドネシアのカリキュラムでは、小学校前と後の読み書きに関する教育レベルが大きく異なることから、その橋渡し役を担う教育サービスを志向し、今後は、教育機会にアクセスしにくい地域へサービスを広げることを計画している。

企業概要

- 社名 : Kids 'N Teens
- 住所(本社) : Jl. Rungkut Asri 14 No.1, RL III D/14, Surabaya 60132
- URL : <https://kidsnteensindonesia.wordpress.com/>
- 主要拠点 : スラバヤ、パル(中スラウェシ)、パレンバン、ジャンビ (国内のみ)
- 設立年 : 2008年
- 従業員数 : 30人(スラバヤは5人で、うち3人は非正規)
- 敷地面積 : 3.5m x 3.5m が3部屋、その他を含めて約50m²
- 主要事業 : 読み書き、算数、英語の教育
- 対象年齢 : 2歳児～小中学生
(幼児クラスおよび小学生・中学生クラス)
- 社是 : “Your Best Education Solution”



民家を利用したスラバヤ教室の入口

ビジネスの概要 ①

主要事業名

「Kids 'N Teens」

対象年齢内訳

2歳児～小学生向け。幼児で通っていた児童が小中学生になっても通うケースが多い。スラバヤでは幼児が約20人、小学生が約10人、中学生が4人である。

事業対象の特徴

- 授業料は、1時間の授業を週2回で月175,000ルピア(約1,620円)。教科書は1冊6万ルピア(約555円)。入学金が10万ルピア(約930円)。この金額の払える中間層が主な対象となっている。
- パル、パレンバン、ジャンビでは、スラバヤとは異なり、小学生でも読み書きのできない子供がたくさんいるため、児童数は拡大傾向にある。

売り上げ状況

スラバヤのみで年間約1億2,000万ルピア(約110万円)。

パル、パレンバン、ジャンビのフランチャイジーからは売上の5%をロイヤルティとして毎月スラバヤの本部へ支払う。スラバヤの売上は伸び悩むが、ジャワ島外のパル、パレンバン、ジャンビの売上は大きく伸びている。

マーケティング手法

- 基本的には、パンフレットを配って児童を募集するほか、口コミも活用。
- 創立者のディアン氏は、高校生の頃から家庭教師を務め、よい評判があった。
- インドネシアでの教育では、幼稚園と小学校の段差が大きく、小学生の段階で読み書きができなければならない。しかし、政府は、幼稚園まで読み書きを教えることを許可していない。Kids 'N Teensはその段差を埋めることを目的に設立された。従って、正式の教育機関としての政府認定をまだ受けていない(読み書き以外のもの、例えば算数や英語を小学校に入る前の幼児に教えることは認められている)。
- 「自分で考える力」を養うことを目的としており、定型的な演習で解き方を覚えさせる公文式については批判的。数独なども取り入れている。
- 教材は独自に作成したオリジナルを使用。



読み書き用のオリジナル教科書



算数のオリジナル教科書

JETRO

ビジネスの概要 ②

事業の特徴

- 幼児～小中学生を対象に、読み書き、算数、英語を教える教室のフランチャイズビジネス。
- ジャワ島外のパル、パレンバン、ジャンビでは小学生でも読み書きが満足にできない子どもが多く、この教室に通う児童数も増加傾向が顕著。読み書きのできる児童の多いスラバヤはやや停滞気味。
- 小学校前と後の読み書きに関する教育レベルが大きく異なることから、その橋渡し役を担う教育サービスを志向。
- 今後は、教育機会にアクセスしにくい地域へサービスを広げたい。



幼児クラスの教室

人事・労務手法

- 教師には、教師免許を持っていながらまだ教師になっていない大卒者を採用。
- 自己マネジメントの研修を5～6日、教師としての積極性を高める研修を3日、問題解決のための研修を状況に応じて行っている。
- 教師としての契約はスラバヤが2年、それ以外は1年毎の契約である。
- 年に最低1回、ディアン氏がパル、パレンバン、ジャンビなどを訪問して授業を視察。教師の再研修も適宜実施している。



幼児クラスの教室



幼児クラスの時間割

社会的活動の取り組み事例

- 貧困層の子供たちに対して、町内会や教会を通じて無料授業を行なっている。

日本（外資系企業）と取り組んでみたいこと

- 日本の幼稚園教育のカリキュラムを取り入れたい。とくに、遊びながら学ぶメソッドに興味がある。
- 日本の図工教育を取り入れ、インドネシア・オリジナルなものにしていきたい。

訪問後の編集後記

インドネシアでは若年人口がまだ増加することから、子ども向けの教育ビジネスが花盛りである。その多くは、良い学校へ入るための進学塾や補習校であり、英語を幼児段階から学ばせる家庭も増えている。今回取り上げたKids 'N Teens はむしろ、そうした流れから取り残されたBOP層の子どもたちを対象に、読み書き、算数、英語といった教育機会を提供することを目的としている。決して高度な内容を教えているわけではないが、こうした子どもたちに単なる知識だけではなく「自分で考える力」を付けさせたいという思いが感じられる。

とはいえ、ビジネスとして展開するには、通常の学校教育以外に授業料を払ってもらう必要があり、それも払えない家庭が多いため、児童を集めるのは大変なようである。それでも、教育内容に自信があるようで、現在の児童やその親からの口コミで何とかビジネスを成立させている。ディアン氏自身は、フランチャイズビジネスではあるが、利潤拡大志向では必ずしもない。かつてのフランチャイジーのなかには、児童数を大幅に増やすなかで、利潤拡大志向に走り、独立していった者もいるとのことである。

ディアン氏は日本の幼稚園教育に注目しており、とくに遊びながら学べる技術を取り入れたいとのことであった。インドネシアの教育のほとんどは、教師の言ったことを覚えることに終始し、遊びと勉強を明確に分ける傾向がある。「自分で考える力」をつけさせるためにも、日本の幼稚園教育のやり方をもっと学びたいとのことであった。この辺については、ビジネスパートナーというよりも、技術提携のような形で進めることは可能かもしれない。



代表のディアン氏
高校生時代から教えることに興味を深めた



イメージ



JETRO

【免責事項】本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。